

平成30年度第1回学校評価結果のお知らせ

保護者の皆様には、お忙しい中7月に実施しました「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告いたします。

梅津北小学校が学校教育目標の実現に向けて、特に大事にしたいことに絞ってアンケートをとり、保護者・児童（低学年、高学年）・教職員の3者を比較できるようにしました。継続すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

アンケートの方法

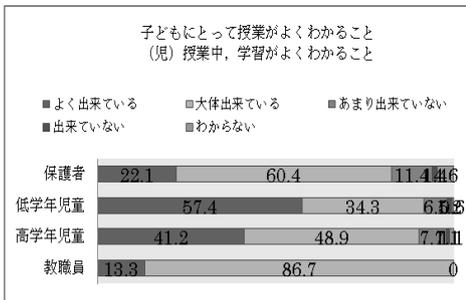
アンケートの項目を、【◆確かな学力】【◆豊かな心・健やかな体】【◆学校・家庭・地域の連携】のグループに分け、それぞれの項目について「重要度－実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度・実現度がともに高い項目は比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

アンケート結果より

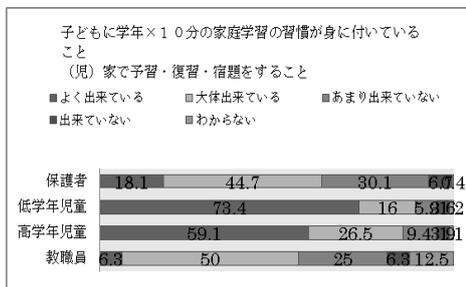
- ※実現度についてグラフ化しています。
- ※（ ）内は、児童用アンケートの文言です。
- ※全項目は掲載できませんので、ご了承ください。



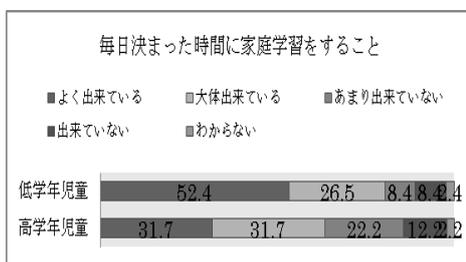
【確かな学力】

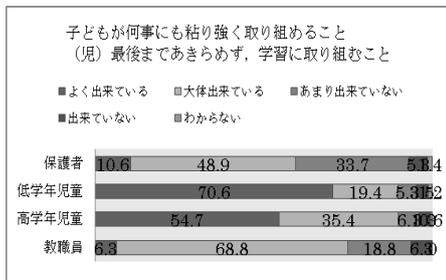


◆『子どもにとって授業がよくわかること（授業中、学習がよく分かること）』では、90%以上の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。保護者の方も80%以上となりました。教職員では、全員が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。それは、教材研究や授業力向上に向けた取組を、学校全体で行っている表れでもあります。しかし、「あまり出来ていない・出来ていない・わからない」と答えた児童が10%、保護者では20%弱となっています。その部分の教職員との差をきちんと受け止め、さらに研究・研修に努めたいと思います。



◆『子どもに、学年×10の家庭学習の習慣が身に付いていること（家で予習・復習・宿題をすること）』では、80%以上の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。一方、保護者・教職員では60%前後となり、児童との割合に差がありました。それは、児童のアンケートの文言には時間の記述がなかったからだと思いますが、着実に家庭学習の習慣が身に付いていることは分かりました。しかし、児童アンケートのみの設問である◆『毎日決まった時間に家庭学習をすること』については、低学年では80%の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と答えているのに対して、高学年では60%程度に減っています。習い事や部活動等、放課後の活動の関係もあるのですが、学習する時刻を決めることは、家庭学習を継続していくうえで、非常に大切なことです。曜日ごとに違ってよいので、一度ご家庭で話し合っていたいただきたいと思います。





◆『子どもが何事にも粘り強く取り組めること』は、学校教育目標に掲げられている目指す子どもの姿です。「よく出来ている・大体出来ている」と答えた児童は90%、教職員も70%を超える割合となっています。保護者の方は60%と決して高い割合ではありませんでした。「もっとできるはず」「もっと頑張ってもらいたい」という保護者の方の期待が高い結果だと思います。ご家庭では、子どもたちの頑張りをしっかりと褒めて、これからも引き続き励ましていただきたいと思います。

【自由記述欄より】

○学力を定着させるための手立てを考えてくださり、ありがとうございます。自主勉強や宿題以外で自主的に取り組むためのプリント集等も準備していただき、主体的にやっというふうになりました。

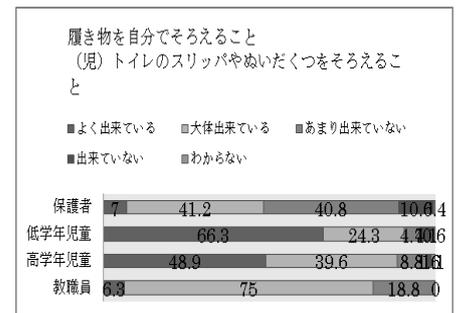
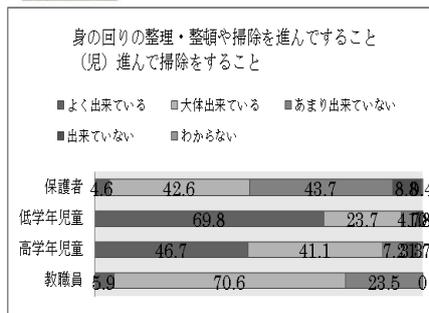
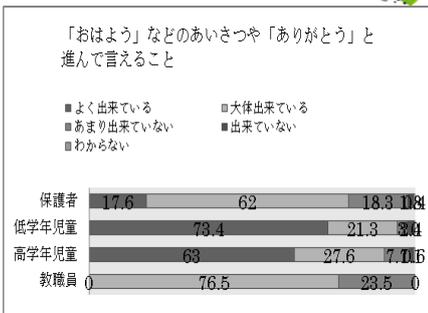
○算数検定や漢字検定の勉強会を、積極的に行ってください、とてもありがたいです。

○週末の宿題がやや多いように感じる。クラブ等もあり、宿題に追われているように思う。親が子どもだった頃より宿題が多いから、そう感じるのかもしれないが、子どもたちに余裕がないと思う。

⇒宿題については、平日の宿題と週末の宿題をどのようにするかを、年度当初に学校全体で検討しています。年度当初はちょうど良くても、放課後や休日の過ごし方が変化している児童もいると思いますので、年度途中でも検討する機会を設けるなど、工夫したいと思います。



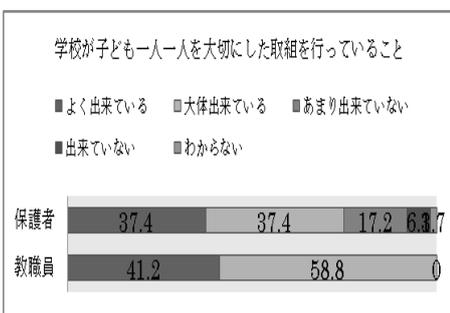
【豊かな心・健やかな体】



本校の合言葉「あいさつ・そうじ・スリッパ」に関わる設問について考えたいと思います。

◆『子どもが「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」と進んで言えること』では、「よく出来ている・大体出来ている」と答えている児童は90%、保護者・教職員は共に80%弱となりました。高学年児童でも90%があいさつできていると自覚しています。これは非常に高い割合です。そういう高学年の姿が、低学年の良い見本となり、低学年児童でも高い割合となっているのだと思います。

◆『子どもが身の回りの整理・整頓や掃除を進めること(進んで掃除をすること)』では、90%程度の児童が「よく出来ている・大体出来ている」と答えていますが、保護者では50%を切る結果となりました。児童は学校の掃除時間でのことを答えているのだと思われます。保護者の方は、家庭での姿を答えているので、大きな差となったと思います。同じように◆『子どもが履き物を自分でそろえること(トイレのスリッパやぬいだくつをそろえること)』も児童と保護者の割合に大きな差がありました。この設問も、児童は学校のトイレのスリッパや保健室に入るときなどの場面でのことを答えているのだと思います。どちらも、学校では出来ている姿がありますので、家でも意識してするように指導していきたいと思います。



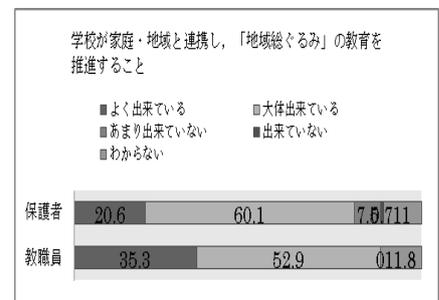
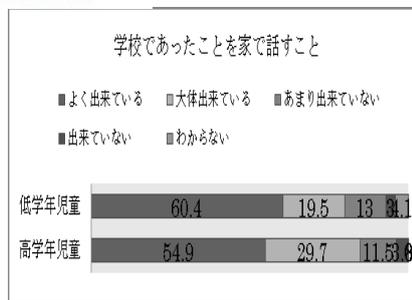
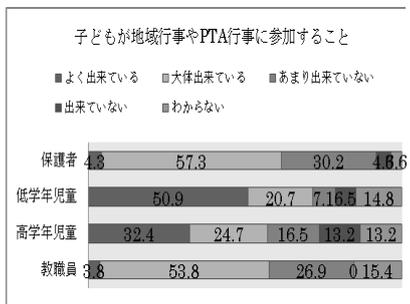
◆『学校が子ども一人一人を大切にしたい取組を行っていること』は保護者・教職員のみで設問でした。70%以上の保護者の方から「よく出来ている・大体出来ている」と答えていただいています。一方で10%の方は「わからない」というお答えでした。教職員は全ての教職員が「よく出来ている・大体出来ている」と答えていますので、保護者の方へ十分にその取組が伝わっていないと考えられます。学校や担任が児童一人一人大切にしている取組は継続し、その取組を学校だよりや学級だより、ホームページ等でも発信していきたいです。

【自由記述欄より】

- 子どもたち自らあいさつや感謝の言葉を言う、素直に謝るという行動が出来れば良いと思う。そのためには大人が手本となって見守っていきたいです。
 - 理科室など特別教室にはエアコンが設置されないとのことで、学習する環境づくりをもっと進めていただけたらよいと思っています。
 - どの都度、子どもの様子を見て的確に指導してもらっていると思う。高学年らしい指導で子どもも信頼している様子が分かります。
 - 子どもたちがもめごとを起こした時、「自分たちで話し合って解決するように」と先生が言うのは、内容にもよりますが、低学年ではまだまだ難しいところがあります。だから先生には子どもたちの話にしっかり耳を傾けてほしいと思います。
 - 先生には、子ども一人一人をしっかり見て理解してもらうことが重要。一人一人に合った指導をしていただきたい。
- ⇒児童の発達段階はもちろん、一人一人の個性を、担任だけではなく全教職員で見取り、指導していきたいと思います。



【学校・家庭・地域との連携】



◆『子どもが地域行事やPTA行事に参加すること』は、高学年児童で60%弱、低学年児童は70%が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。保護者の方も同じくらいの割合でした。地域やPTAの行事に参加している児童は、各行事を楽しみに待っています。そして参加している時の表情は、とても楽しそうです。行事への参加を通して、地域の方と触れ合ったり、行事の中で役割を担ったりすることで、自己有用感を感じ取り、児童一人一人の力となります。PTAの方はもちろん、地域の方々は、常に梅津北の子どもたちのことを考えていただいている、大変ありがたいと思います。それぞれお忙しい中、日程や時間のやりくりをして行事等の準備から当日の運営までをいただいています。様々な行事を継続していくのは、決して容易ではないと思いますが、児童が成長する大きな取組ですので、学校・家庭・地域と力を合わせて、行っていければと思います。

◆『学校であったことを家で話すこと』は、児童のみの設問でした。「よく出来ている・大体出来ている」と答えている児童の割合は、低学年が80%、高学年では85%となっています。「高学年になると、あまり学校の話をしてくれなくなった」というお声も聞きますが、アンケートでは、高学年児童の方が、家庭でよく話をしているという結果となりました。それは、高学年になって急に話すようになるものではなく、やはり低学年から丁寧に子どもの話に耳を傾ける環境があり、大きくなってからも安心して話ができる雰囲気があるのだと思います。家庭での安心感が、児童の情緒面の安定につながります。それが、学校で学習に意欲をもって向かう力になったり、困難にぶつかったときの支えとなったりします。今後も、お子様の話に耳を傾けていただきたいと思います。

上の2つの設問からも分かることですが、◆『学校が、家庭・地域と連携し、「地域総ぐるみ」の教育を推進すること』については、80%を超える保護者・教職員が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。しかし、「よくわからない」と答えている保護者・教職員が10%強いることも見えてきました。「よくわからない」理由は、<「地域総ぐるみ」の教育を推進する主体者となれているかわからない>や<「地域総ぐるみ」の教育とは何かがわからない>等あると思います。まず、教職員自身や学校自体が「地域総ぐるみ」の教育について考える機会をもち、それをおたより等を通じ、保護者の方々に発信していければと思います。



【自由記述欄より】

○参観の授業は道徳ばかりなので、他教科の授業風景も見てみたいです。

⇒年間2回、道徳の授業を保護者・地域に公開することとなっています。教科については、年間通して偏りがないよう計画しています。1月に予定している自由参観では、1日中参観となりますので、その時に、様々な教科での学習の姿をご覧ください。

○学校や地域の子どもたち一人一人とかかわりをもつことは非常に重要なことだが、個々の考え方やプライバシー・個人情報等の点から平等にするには、まだまだ問題山積みだと思います。

○地震・大雨・高温等、不測の事態にも教職員の方々が冷静に対応してくださっているので、気持ちは不安になることもありますが、子どもも保護者も安心しています。

○地震や大雨で休校になり、親子で緊急時について少し話をしました。メール配信してくださり、とても助かりました。災害時の連携(学校・地域)について、これからますます考える必要があると感じています。

⇒今年は特に、地域とのつながりの大切さを考える夏となりました。災害の被害が大きい地域では、救助や復旧等を、地域住民が力を合わせて行われている様子も報道されていきました。家庭の在り方・地域とのつながり等、時代と共に変化していきますが、人とのつながりは大切だということを、児童には伝えていきたいと思います。

○PTAや地域行事は大切だと思うのですが、共働きのため、なかなか参加が難しいことがあります。

○PTAのやり方を改善してほしいです。

○PTAの進め方や取り組み方は、その時のメンバーで変えていけることが分かりました。今も、互いに助け合いながら、取組を進めています。

○PTAの打合せなどで学校へ行くと、久しぶりに学校の文化に触れ、子どもたちの普段の様子を見ることが出来る。子どもたちの困りも分かるので、PTAとして子どもに関わることで手助けができる。

○親がPTAとして学校のために活動していることを、子どもはほこりに感じています。それが、学習面などのやる気につながっています。

⇒毎年、PTAについて多くのご意見をいただきます。それだけ関心をもっていただいているのだと思います。お仕事をされながらPTA活動に関わってくださる方もたくさんおられます。それぞれ協力しながら、子ども達のためにお取組いただき、大変ありがたいです。その時その時に合った取り組み方を考えながら、PTA活動を継続していきたいと思います。

【学校運営協議会でのご意見】

◎6月の地震の時は、児童は通学途中であった。建物の倒壊や再び激しい揺れが来た場合等、最悪の事態を考えると、通学路を見守る大人は、子どもたちにどのように働きかければよかったのかと考える。家や学校であれば、避難のマニュアルに従い指示も出しやすいが、そうではない場面では難しい。そういうことを話し合う機会をもってもよいと思う。



◎登校時・下校時の通学路上での事件や事故も起こっている中、通学路や校区の危険箇所等のチェックを行っている。自治会でも、街灯等が必要な箇所等話し合っている。しかし、梅津北小は集団登校すべきなのに、一人で登校している子どもがいる。その子どもたちの安全が心配。



◎学校で行われる地域行事への参加の割合が高いのは良いが、地蔵盆では、遊びやおやつ等の時間は顔を出すが、それ以外の時間帯に子どもの姿が見られないのは、寂しく思う。

◎新体力テストにおいて、全市平均を越えているのは、部活動を始め、大文字駅伝に向けての取組や地域スポーツなどの活動が大変さかん。このような活動が基礎的な体力作りにつながっているのでは。



◎昔は、PTAや地域が1つとなり、様々な行事に取り組んでいた。今は、共働きの家庭も多く、PTAなどに対する考え方も変わってきている。PTAの本部や委員になると、楽しさも味わうことができる。

いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。いただいた全てのご意見は掲載できていませんが、ご意見・アンケート結果について、全教職員で共有しています。その中から、成果としてとらえられる項目に関しては、今後も継続して取り組んでいき、課題としてあげられる項目については、保護者の皆様のお声を真摯に受け止め、学校として改善につなげたいと思います。ご協力ありがとうございました。